

令和3年度 教育活動の成果と課題

学校名	恵那市立上矢作小学校
記載者	細江 幸次

○……今年度の成果 ▲……次年度への課題

学校経営		地域とともに規律と対話のある学校づくりを推進する	評価
1	学校運営協議会とともに、学校や地域の特色等を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。		4
2	規律と温かな対話により、信頼し合える人間関係を築く。		4
<p>○ 本年度の重点として取り組んできた「静けさづくり」と「『日常』と『行事』を両輪とした活動づくり」により、落ち着きがある中で頑張ることができる児童・集団の育成を進めることができた。</p> <p>○ 機会をとらえて校長の学校経営に対する考えを明確に伝えることでチーム学校としての動きが定まってきた。</p> <p>▲ 近い将来における更なる少子化・学校小規模化に向けての対策を地域を巻き込んで講じていく必要がある。</p>			
研修		確かな指導力を身に付ける	評価
1	学校や自己の課題を明確にし、主体的に研修を行い、指導力を高める。		4
<p>○ ICT、児童理解、歯科指導等、今日的な学校課題に対応した指導や特色を生かした教育活動を推進できるよう研修を実施することができた。</p> <p>○ 教職員のコンプライアンスに関わっては、計画的またはタイムリーに機会を設け、内容や方法を工夫した研修を実施することができた。</p> <p>▲ 悉皆研修だけでなく、各自のキャリアステージに応じた研修が受けられるよう教職員に働きかけていく。</p>			
教科指導		主体的な学びを通じて、確かな学力を育成する。	評価
1	児童生徒の実態を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。		4
2	一人一台のタブレット端末を有効に活用し、学習効果を高める授業及び活動を展開する。		5
<p>○ 令和5年度小学校理科部会研究発表会県大会に向けて、理科を研究の教科にして取組を行い、問題を科学的に解決するための資質・能力の育成を図ってきた。</p> <p>○ ロイロノート、キュピナなどの使い方を研究実践を行い、一人一台タブレット端末を学習に活用することで、主体的・対話的で深い学びにつなげることができた。</p> <p>▲ 「令和版 家庭学習の手引き」を作成して、家庭への啓発と学校での指導に努めたが、家庭学習に主体的に取り組む姿にはまだまだ弱さがある。</p>			
道徳教育		よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う	評価
1	自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習の充実を図る。		4
<p>○ 各学年の学習内容や行事と照らし合わせた年間計画を立て、実践することができた。</p> <p>○ 児童の実態に合った内容項目を優先的に取り扱って授業を行ったり、ICTを積極的に活用したりして、学習の充実を図ることができた。</p> <p>▲ 道徳の実践力の向上を目指して、研修の機会を積極的に設け、指導法の啓発や職員間の実践交流を行う必要がある。</p>			
小学校外国語科・外国語活動		コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する	評価
1	外国語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる授業を行う。		5
<p>○ デジタル教科書の活用により、良質なインプットができるようになった。</p> <p>○ タブレット端末の導入により、英語でのコミュニケーションをより活発に行う児童の姿が見られるようになった。</p> <p>○ 加配教員による専科教員による授業を行うことにより、学ぶ意欲や技術を高めることができた。</p> <p>▲ 観点ごとの評価の仕方がはっきりと定まっていないところがあるので、今後は評価の在り方を明確にしていきたい。</p>			
総合的な学習の時間		よりよく問題を解決し、自己の生き方を考える資質・能力を育成する	評価
1	探究的な過程を通して、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮する学習を行う。		4
2	ふるさと恵那に対する誇りと愛着を育む「ふるさと学習」を行う。		5
<p>○ 地域の壮健クラブの方と一緒に取り組む栽培活動では、名札をつけたり紹介を入れたりすることによって、コミュニケーションが深まり、学びを充実させることができた。</p> <p>○ より探究的な活動になるよう単元のデザインを工夫したことで、より主体的に取り組む児童の姿が得られた。</p> <p>▲ 事前の相談や準備が十分ではない時があったので、今後は地域の指導者に学校側の意図を伝え連携を密にしていきたい。</p>			

特別活動		自主的、実践的な態度を育成する	評価
1	様々な集団活動を通して互いのよさや可能性を発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を明確にし、それを解決しようとする態度を育てる指導の充実を図る。		4
<p>○ 運動会において全校種目を設定し、その運営を団リーダーに任せることによって、全校のリーダーを育成することができた。</p> <p>○ 全校で取り組む児童会のキャンペーンを月ごとに固定したことで、同時に複数のキャンペーンが行われることがなくなり、1つのキャンペーンに力を入れることができるようになった。</p> <p>▲ コロナの状況もあり、縦割りの遊び時間を多く設けることができなかったため、今後はコロナの状況を考えながらできることを行っていきたい。</p>			
生徒指導		自己指導能力を育成する	評価
1	自己存在感を味わい、共感的な人間関係を育み、積極的に自己を生かす能力を高める指導の充実を図る。		4
<p>○ なかよしアンケートの結果から、必要に応じて早期に聞き取りを行うことで積極的に生徒指導を行うことができた。</p> <p>○ 日ごろから職員間で交流を行い、報連相を心がけ、担任だけでなくチームで児童を見守ることができた。</p> <p>▲ トラブルを仲間同士で解決するための自己指導能力や、場に応じた振る舞いを考える判断力を養っていく必要がある。</p>			
キャリア教育		主体的に生き方を選択できる能力や態度を育成する	評価
1	社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育てる指導の充実を図る。		4
2	自己の能力や適性を見だし、社会に貢献する態度を育てる「志」教育の充実を図る。		4
<p>○ 岐阜県のキャリア・パスポートの活用法の周知とファイルの整備を行い、学期、行事ごとにめあてづくりやふり返しなどに活用し、記録として蓄積した。</p> <p>○ 児童が学級の係や委員会活動を担当して自身の役割を果たし、学級・学校への貢献における達成感を味わえる取組を行っている。</p> <p>▲ 6年間の見通しで実践しているので、今後は中学校とも連携して取り組んでいく必要がある。</p>			
健康・安全教育		健康で安全な生活を営む態度を育成する	評価
1	基本的な生活習慣の確立と、自ら感染症予防に取り組む指導を行う。		5
2	危機管理意識をもち、安全な生活に対する意識を高める指導の充実を図る。		4
<p>○ マスク着用・換気の徹底・手洗いや消毒の徹底・黙食での給食の実施・三密回避など、考えるだけの感染症対策を講じることで、コロナ禍においても充実した活動を行うことができた。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症対策を全職員で共通理解して児童に浸透させることで、一人一人が健康で安全な生活を意識できるようになった。</p> <p>○ 命を守る訓練や地域別での分団会等で、時と場合に応じた危険を考え、安全や防災の意識を高めることができた。</p> <p>▲ コロナ禍で、健康や安全面での活動が制限されたため、効果的な学習のあり方を探っていく必要がある。</p>			
特別支援教育		自立の基盤となる力を育成する	評価
1	特別な支援を要する一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。		4
<p>○ 校内教育支援会議を必要に応じて開き、「あおば」等の関係機関との連携を密にして、見通しをもって児童の支援に当たることができた。</p> <p>○ 全ての要支援対象児童について「個別の支援計画」を作成し、保護者との共通理解の上で支援を進めることができた。</p> <p>▲ 特別支援教育について職員研修の機会を増やして、特別支援教育についての理解を深めていきたい。</p>			
読書活動		読み解く力と豊かな感性を育成する	評価
1	読書環境の整備や読書に親しむ機会を確保し、自主的・自発的な読書活動の充実を図る。		4
<p>○ 図書委員会を中心に、読書への興味や意欲を高める活動を、図書館司書とも連携して行うことで、図書館に足を運び本を借りて読む姿が増えた。</p> <p>○ 朝読書の時間の確保と、朝読書前に図書館を開放することで、読み終わった本を確実に交換でき、たくさんの本に触れることができた。</p> <p>▲ 積極的に本を借りる児童と借りない児童の差が大きく、なかなか読書に気が向かない児童にどう興味をもたせていくかが課題である。</p>			
人権教育		確かな人権感覚を養う	評価
1	人権問題に対する認識力・自己啓発力・行動力を育成する指導の充実を図る。		4
<p>○ 児童会による「あったか言葉」キャンペーン等の活動を通して、児童による活動への意識付けができた。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症にかかる差別や偏見をなくすための指導を行うことで、認識力を高めることができた。</p> <p>○ 「ひびきあい活動」では、各学級の実態に応じた「思いやり宣言」への取組により、学年に応じた成果があった。</p> <p>▲ 児童会による日常的なあいさつ運動や「あったか言葉」の取組、「ひびきあい活動」の取組については、年間を通して継続し、児童の行動力の向上を図りたい。</p>			

へき地・複式教育		一人一人に学ぶ力と豊かに表現する力を育成する	評価
1	へき地校・複式学級の特性を生かし、地域や児童生徒の実態に即した創意ある教育活動を推進する。		4
<p>○ 小規模校の利点を生かし、個の学習状況に応じた指導を進めることができた。例えば、週に一度7時間授業の日を設定することで、補充学習を行う時間（学習タイム）を生み出し、教頭、教務主任等も学習指導に加わって、学習の遅れ勝ちな児童の学力の向上に努めた。</p> <p>○ 協調性よりも、児童の多様性を大切にしながら、一人一人の良さが認められる学級経営に努めることができた。</p> <p>▲ 主体性やたくましさの欠如等、本校の児童に見られる弱さ（課題）を克服するため、これまで以上に意識しながら学校教育を推進していく必要がある。</p>			
情報教育		情報活用能力を育成する	評価
1	児童生徒が情報モラルを身に付け、情報を適切に活用できる指導の充実を図る。		4
2	教科の特質、学校の規模等に応じたICTを効果的に活用した学習活動の充実を図る。		5
<p>○ 児童がタブレット端末を自由自在に活用しながら学習を進めるためのICTスキルを身に付けさせることができた。</p> <p>○ タブレット端末と大型テレビを利用した資料提示、学習記録、プレゼンテーションの作成など、ICT機器を効果的に活用した授業実践に努めることができた。</p> <p>○ 外国語や外国語活動の授業において、ICTを活用することで、教師の専門性を生かした遠隔授業を試みることもできた。</p> <p>○ ドローン教室を年7回開催し、プログラミングの基礎について学ぶ機会とすることができた。</p> <p>▲ 機器の使用制限ではなく、情報機器への依存や情報モラル等にかかる課題を含めたICTリテラシーを児童に育む必要がある。</p>			
ふるさと学習			評価
1	「ふるさと学習読本」等を活用し、ふるさとを愛し、誇りに思いうる心を育む学習の充実を図る。		5
<p>○ 栽培活動・地域の史跡めぐり・和太鼓の取組などの特色ある教育活動を題材に、一人一人が課題をもって追究し、上矢作の豊かな自然・歴史・文化について学ぶことで、郷土愛を育むことができた。</p> <p>○ コロナ禍における感染対策を徹底しながら、地域の方との交流をし、地域学習をすることができた。</p> <p>▲ 小・中学校のそれぞれの取組を9年間を見通して整理し、中学校の「上矢作フォーラム」との接続も意識して、ふるさと学習の内容を一層充実させていきたい。</p>			
NRT（標準学力調査）			評価
1	NRTの実施を指導改善サイクルの中に位置付け、結果の分析及び指導の改善に有効に活用する。		4
<p>○ NRTの結果の分析を現職研修で行うことによって各学級の課題点を明確にし、指導改善に役立てることができた。</p> <p>○ 年度末（1月）にCRTを行い、国語、算数、理科についての学習状況を把握し、事後の指導に生かすように計画している。</p> <p>▲ 具体的な個々の児童の課題に対する改善策が弱い。継続的な取組が必要である。</p>			
Hyper-QU			評価
1	児童生徒の意欲や満足感、学級集団の状態を質問紙によって測定し、学級経営の向上に有効に活用する。		4
<p>○ QUの結果を担当が分析し、学級の様子を把握するのに役立てることができた。</p> <p>○ 現職研修でQUの研修を行い、QUの知識や活用の仕方を深めることができた。</p> <p>▲ 第2回の検査での学級の変化も意識し、担任だけでなく複数の職員で情報を共有していくなど、データをより有効に活用する機会を設ける必要がある。</p>			
令和4年度 学校経営の重点			
<p>(1)小規模校の利点を生かした個別最適化された個別学習支援(学習タイム)の充実と家庭学習に対する意識改革(職員・児童・保護者)とさらなる充実を図っていく。</p> <p>(2)ICT機器等を有効活用による理科学習を核とした主体的・対話的(3つの対話)でより深い学びの具現と「特別の教科 道徳」を核とした強かな個の育成と集団づくり</p> <p>(3)地域(学校運営協議会、地域学校協働本部、五長会 等)との連携強化と地域の少子化対策・更なる学校小規模化対策に向けての連携強化</p>			